

## 咳発作成人患者の百日咳診断と治療の臨床的検討

出雲市 堀江内科呼吸器科医院 堀江 肇  
国立病院機構松江病院 竹山博泰

**【目的】**激しい咳発作を主訴として来院する新来患者の病歴、理学所見、胸部XP所見等より新来当日に百日咳を疑い、直ちに治療をすすめる妥当性について臨床的検討をおこなった。

**【方法】**H15年8月よりH17年8月末までの間に咳を主訴として新来受診した患者総数は889名であり、そのうち嘔吐や夜間の睡眠障害、無呼吸発作、窒息感、レプリーゼと思われる症状などくに激しい咳による症状を訴えた55名において鑑別診断の必要性から目的を説明し了解を得て血清百日咳凝集素価等の検査をおこなった。

**【結果】**1.血清百日咳凝集素価が山口株または東浜株のいずれかがシングル血清で1280倍以上またはペア血清で4倍以上を呈した患者は24名であった。2.窒息感またはレプリーゼがあれば血清百日咳凝集素価は有意に高値であった。3.PT-IgG抗体価またはFHA-IgG抗体価と血清百日咳凝集素価シングル血清は有意に正の相関を示した。4.1の24例中15例にCAM600mg5日間の投与をおこない14例に咳にたいして有効であり、その中の4例は著効を呈した。

**【結論】**窒息感があれば百日咳として、なくともレプリーゼがあれば百日咳を強く疑って直ちにCAM600mgを投与しつつ鑑別診断検査の結果を待つことにより速やかな症状軽減と感染拡大を防ぐことができる。